

筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター 水戸協同病院

江戸時代末期、水戸学発祥の地である水戸藩は明治維新の原動力となりました。およそ150年の時を経て、同じ地に民間病院に国立大学のシステムを取り入れるという日本発の医師養成施設が誕生しました。その病院こそ「水戸協同病院」です。専門科の垣根をなくしてプライマリ・ケアを重視しつつ、大学レベルの最先端治療までを患者に提供し、幅広く奥深い知識を若手医師に授ける、これらをコンセプトにはじまりました。

日本国内で総合内科・総合診療科を標榜する病院がありますが、その多くは各専門科の隙間を埋める存在でした。しかし、当院総合診療科は、各専門科の全面的な協力の下で診療の核として存在しています。

実際の診療をご紹介します。内科外来ではどんな主訴の患者でも診療します。仮に入院患者の担当となれば、自身が入院担当として各専門科とディスカッションしながら主体となってマネジメントします。外来担当も初期研修2年目からはじめ、上級医の指導のもと、診断と治療をしています。入院が必要になれば、そのまま主治医（チーム）として担当し、外来入院時、入院中、退院後のフォローまで継続して経験することができ、疾患のすべての経過を体感することが可能です。残念なことにお亡くなりになれば、剖検に立ち会い、全職種が集まるCPCで徹底的に議論し明日の診療の糧にします。希望に応じて、他院での研修で「他流試合」も経験できます。各専門科での短期のトレーニング、国内外（例：東京ベイ、獨協医科大ICU、シンガポール大学、ネバダ大学、東京国際医療センター、JCHO高輪病院）でのトレーニングの実績があります。

全ての若手医師は総合診療科で数ヶ月以上のトレーニングを受けます。毎日の朝カンファレンスや毎週火曜日のグラウンド・カンファレンスにはほぼ全ての専門科が集い、提示される症例を徹底的に検討します。科の垣根を越えた専門医とのディスカッションは本当に学ぶところが大変多く刺激的です。

『一診入魂』

幅広く、そして深く病を追求し、患者と最期まで真摯に向き合う。これが私たちの実践する医療です。そんな現場を垣間見たい方は、是非見学にいらしてください。

我々のパッションと素晴らしい水戸のグルメでおもてなしをします。